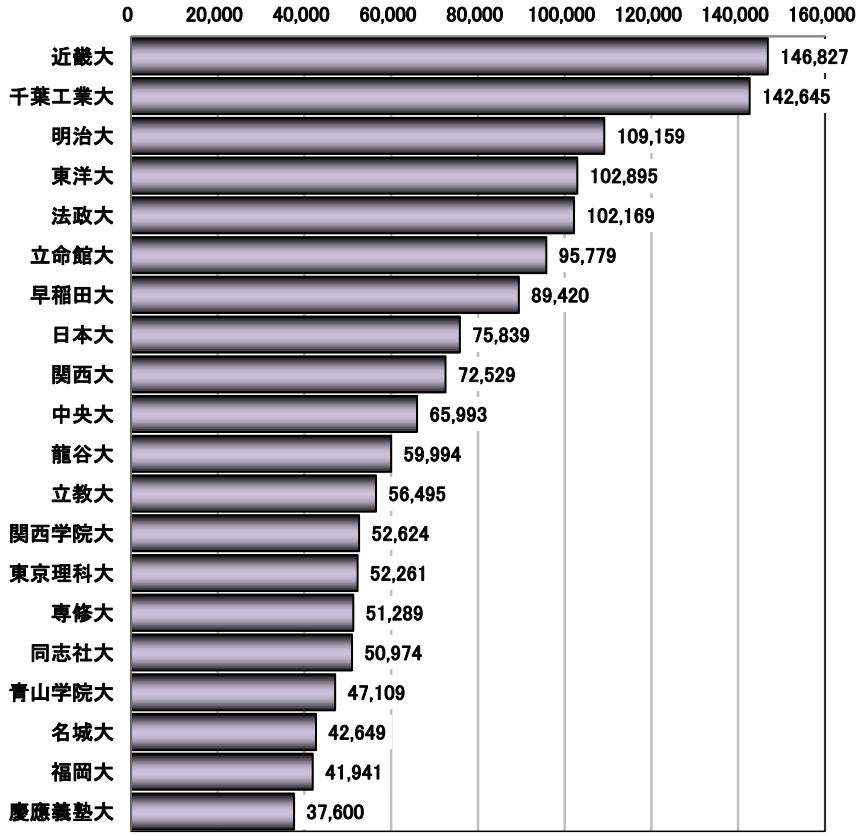
※本文中の(　)内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

◎志願者数が多い大学

□志願者数５万人以上の大学は16大学で前年度より３大学増加

順位	大学名	志願者数			
		2024年度	2023年度	増減	指数
1	近畿大	146,827	152,191	-5,364	96
2	千葉工業大	142,645	145,128	-2,483	98
3	明治大	109,159	108,042	+1,117	101
4	東洋大	102,895	87,094	+15,801	118
5	法政大	102,169	99,051	+3,118	103
6	立命館大	95,779	91,382	+4,397	105
7	早稲田大	89,420	90,879	-1,459	98
8	日本大	75,839	98,506	-22,667	77
9	関西大	72,529	77,699	-5,170	93
10	中央大	65,993	67,786	-1,793	97
11	龍谷大	59,994	61,083	-1,089	98
12	立教大	56,495	58,208	-1,713	97
13	関西学院大	52,624	43,737	+8,887	120
14	東京理科大	52,261	50,698	+1,563	103
15	専修大	51,289	44,918	+6,371	114
16	同志社大	50,974	49,972	+1,002	102
17	青山学院大	47,109	43,948	+3,161	107
18	名城大	42,649	38,719	+3,930	110
19	福岡大	41,941	41,785	+156	100
20	慶應義塾大	37,600	37,411	+189	101



左の表・グラフは、私立大232大学の一般選抜の志願者数集計において、大学全体の志願者数が３万人以上の大学を上位20大学までまとめたものです(すべて確定値)。

この中で2024年度の志願者数が５万人以上の大学は16大学で、全て前年度より３大学増加しました。16大学中８大学の志願者数が増加、そのうち2023年度から２年連続志願者数が増加したのは明治大、同志社大、立命館大、関西学院大の４大学でした。

志願者数10万人以上の大学は５大学で、前年度の３大学から２大学増加しました。

志願者数が最も多かった近畿大(96)は２年連続やや減少し、大学全体の志願者数は３年ぶりに15万人を下回りましたが、11年連続全国最多となっています。

第２位の千葉工業大(98)は学部新設で話題を集めたほか、共通テスト利用方式の検定料減免の継続により、第２位となりましたが、６年連続増加の反動もあって微減となりました。

第３位の明治大(101)は難関国立大志望者からの併願先としての人気は継続し、微増に留まりましたが３年連続増加で、大学全体の志願者数も３年連続で10万人を上回りました。第４位の東洋大(118)は、前年度志願者数が全国で最も減少しましたが、その反動とキャンパスの都心への移転効果もあり大幅増加しました。第５位の法政大(103)は前年度東洋大に次いで志願者数を減らしましたが、その反動は小さくやや増加に留まりました。第６位の立命館大(105)は一部

学部の交通利便の良いキャンパスへの移転効果もあり、３年連続やや増加です。第７位の早稲田大(98)は微減で２年連続減少し、大学全体の志願者数は４年連続で10万人を下回りました。第８位の日本大(77)は大学を取り巻く厳しい環境で、22,000人余りの大幅減少でした。第９位の関西大(93)は、大阪府下のキャンパスを拡大している立命館大の影響もあって、やや減少で５年連続減少しました。第10位の中央大(97)は前年度やや増加の反動でやや減少でした。

第11位以下で増加が目立った大学に触れます。第13位の関西学院大(120)は<一般・学部個別>の複線化、併願減額制度導入、共通テスト利用方式の出願期間の延長といった入試方式の変更の効果で、大幅増加で４年連続増加しました。第15位の専修大(114)は入試日程の増加により、6,400人近い増加となりました。第16位の同志社大(102)は難関国公立大志願者の併願先として狙われて、1,002人(102)の微増ですが３年連続増加しました。